憧れの大キレットを二泊三日で制覇

――新穂高温泉・右俣谷ルートを使った槍穂縦走

登山家ならずとも誰もが一度は制覇したい大キレット――槍穂縦走。
しかし、定番の上高地ルートでは三泊四日を要する。
多忙で長期休暇が取れない私は、新穂高温泉からアプローチ。
二泊三日で大キレットを制覇し、新穂高へと意気揚々凱旋した。

竹下義朗＝文・写真
Text and Photograph by Takeshita,Yoshiro

北穂高小屋のテラスから大キレット越しに槍ケ岳を振り返る

涸沢岳から見下ろす紅葉の涸沢カールと前穂高岳

大キレット――北アルプス北部の不帰キレット・八峰キレットと共に、日本三大キレットに数えられる槍ケ岳・穂高連峰縦走路の核心部である。長谷川ピーク・飛騨泣きをはじめ多くの険路を抱え、プロの登山家ならずとも一度は挑戦してみたいと思う憧れのルートでもある。

かく言う私もその一人で、毎年挑戦してみたいと思いつつも、なかなか実現出来ずにいた。その最大の理由は、体力や登山技術では無い。「日数」だったのである。

槍ケ岳を皮切りに大喰岳・中岳・南岳の稜線を踏み、大キレット・北穂高岳・涸沢岳を経て、奥穂高岳に至る槍穂縦走をするには、通常、信州側の上高地から横尾を経て槍沢ロッジに一泊。槍沢を発って槍ケ岳山荘に一泊。大キレットを越えて北穂高小屋、あるいは更にその先、涸沢岳を越えて白出のコルに建つ穂高岳山荘に一泊し、上高地へ下山すると言うのが、定番のアプローチである。しかし、これでは三泊四日を要する。私は仕事柄、四日ものまとまった休暇をそうたやすくは取れない。

「せめて三日で制覇出来ないものか…。」

1 千丈沢分岐点周辺飛騨沢の紅葉　2 大キレット核心部の一つ、長谷川ピーク　3 飛騨泣き周辺より槍ケ岳を振り返る
4 槍の肩から拝す御来光　ピラミダルな常念岳が美しい　5 大キレットを越え北穂高小屋へ

この日数がネックとなり、なかなか挑戦出来ずにいたのだ。

加えて、上高地へ入るには、沢渡周辺の駐車場へ車を駐め、バスやタクシーに乗り換えねばならない。当然、こちらの行動も運行ダイヤに制約を受ける。そこで思い付いたのが、新穂高温泉に車を駐め、右俣林道・槍平・千丈沢を経て、一日で槍ケ岳まで一気に登る飛騨側ルート。上高地から槍ケ岳まで二日かかる行程を一日節約出来る。

「これなら三日でイケル!!」

私は登山者もめっきり減り、冬の足音近づく晩秋の槍を目指す事にした。

２００７年10月9日22時30分。仕事から帰宅し急ぎ装備を調えた私は、山梨の自宅から愛車の赤いセリカＧＴ－ＦＯＵＲ ＲＣを駆り、一路、新穂高温泉へ。日付は変わり、10日午前2時。蒲田川河畔の高山市営駐車場へと着いた私は、狭いシートの中で束の間の眠りについた。

出発時刻の午前7時。天気は快晴。標高千メートルを超える新穂高温泉の空気は、早朝の静寂と相まって凛としている。お陰で眠気は一気に吹き飛び気合いが入る。

新穂高温泉を出発してから約2時間。途中、草を食む牛達を横目に穂高平を過ぎ、右俣林道の終点、白出沢出合に着く。ここから奥穂高岳へ通じる右の白出沢は下山ルートとして使う事になるのだが、往路は本道をそのまま進む。

藤木九三のレリーフがある滝谷出合を越え、槍平に着いたのは昼頃。前日に小屋仕舞いした槍平小屋の前で昼

6

7

8

9

6 穂高岳山荘より望む御来光　常念山脈の彼方、安曇野を覆うように雲海が広がる
7 飛騨の名峰・笠ヶ岳を正面に望む
白出沢のガレ場（新穂高への下山路）　8 朝日を浴び黄金色に輝く槍ヶ岳山荘
9 朝日に浮かぶ大槍のシルエット

食を摂り再び歩き出す。途中、三人の下山者とすれ違っただけの実に閑かな山行だ。

最後の水場で渇いた喉を潤し、暫く歩くと急に視界が開け、紅葉鮮やかな飛騨沢のお花畑。ここから一日目の宿となる槍ヶ岳山荘が青い空の下、稜線上に見えるものの、ここから先が胸突八丁である。最後の力を振り絞り、ようやく稜線に立てば、そこは標高３０２０メートル。日本一高い峠、飛騨乗越だ。ここからおよそ10分。午後4時30分、槍の肩に建つ槍ヶ岳山荘へと到着した。

二日目。常念岳の左側から昇る御来光を拝し、槍の穂先を踏む。午前7時、山荘を出発。ここから先、南岳までは緩やかなアップダウンの連続。３千メートル級の峰々が連なる雲上のプロムナードだ。

出発時には良かった天候が進むにつれ次第に怪しくなる。南岳小屋に着いた時には、周囲はすっかりガスに包まれ、しかも風も強い。

「進むべきか、退くべきか…」

ここから槍平へのエスケープルート、南岳新道が伸びている。小屋で熱いダージリンを飲みつつ、しばしの間、思案していたが折角の機会。意を決し、そのまま大キレットを越える事にした。

南岳小屋を出て直ぐにルンゼの急な下りと梯子である。最低鞍部までかなりの高度感がある筈なのだが、ガスで遠くが見えない分、恐怖感は全く感じられない。

長谷川ピークを過ぎ、大キレット核心部の飛騨泣きを越える頃から風が益々強まり、周囲のガスを一気に振り払う。眼前には北穂高岳へと続く大岸壁が威圧するように聳えている。後ろを振り返るも後続は誰一人いない。

昼過ぎ、急登を制した私は、北穂高小屋のテラスから大キレット越しに槍ヶ岳の尖峰を振り返りつつ、温かい味噌ラーメンに舌鼓を打った。

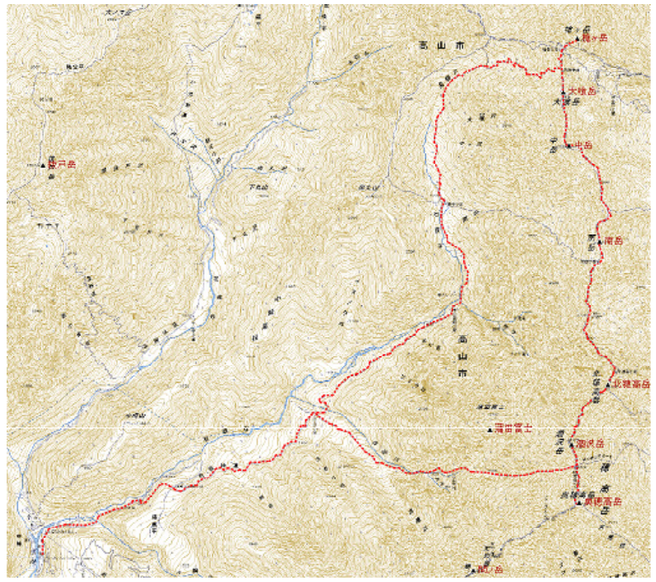
当初、二日目の宿は北穂高小屋と決めていたのだが、腰を落ち着けるには少々時間が早過ぎる。ガスもすっかり晴れ、幸い雨の降る心配も無くなった中、この日、二つ目の難路、涸沢槍越えに挑む。大キレット同様、やはり後続はいない。

午後4時、無事、奥穂高岳と涸沢岳の鞍部、白出のコルに建つ穂高岳山荘に到着。紅葉目当てで混雑する涸沢銀座を避けザイテングラートを登ってきた登山者達と、ストーブを囲みながら山談義に花を咲かせた。

三日目。安曇野を呑み込む雲海から朝日が昇る。雲が垂れ込める中、寒さと格闘しつつ奥穂高岳の頂きを極め、再び山荘へ。しばしストーブで暖を取った後、行き交う人もまばらな白出沢のガレ場を下る。

飛騨の名峰、笠ヶ岳を拝めるのも荷揚小屋跡まで。ここから先は白出沢右岸の樹林帯を進み、岸壁に沿う狭い廊下を過ぎれば重太郎橋。更に樹林帯を進むと、いつの間にか白出沢出合。湧き水で喉を潤した後、退屈だが歩き易い右俣林道を進み、昼過ぎ、新穂高温泉へと意気揚々凱旋。

槍穂縦走の達成感に浸りつつ、帰り際、露天風呂のみの日帰り温泉「ひがくの湯」で三日間の汗を流した。



北穂高小屋テラスにて槍ヶ岳をバックに

コースタイム

第一日目　新穂高温泉（1時間）穂高平（1時間）白出沢出合（1時間30分）滝谷出合（1時間）槍平（3時間50分）千丈沢分岐（1時間）飛騨乗越（10分）槍ヶ岳山荘（泊）
……計9時間30分

第二日目　槍ヶ岳山荘（〈槍ヶ岳往復1時間〉3時間30分）南岳小屋（3時間30分）北穂高小屋（2時間30分）穂高岳山荘（泊）
……計9時間30分

第三日目　穂高岳山荘（〈奥穂高岳往復1時間30分〉7時間30分）白出沢出合（40分）穂高平（30分）新穂高温泉
……計8時間40分

＊コースタイムは天候の状況やパーティの力量、休憩時間により大きく変わるので注意。又、シーズン終盤の山行では、各小屋の営業・宿泊受け入れの可否を事前に確認しておく事。

山行アドバイス

穂高岳山荘から新穂高温泉へ下る白出沢のガレ場は、涸沢へ下るザイテングラートとは違いペンキマーク等が極端に少なく、自分自身でのコース取りを求められるマイナーなルート。目立たない荷揚小屋跡を見落として、そのままガレ場を下ると、沢筋に迷い込んでしまうので要注意。又、増水期や大雨の後などは、白出沢にかかる重太郎橋が水没し、予期せぬ徒渉を強いられる場合もある。

宿泊・休憩

槍ヶ岳山荘 ☎0263-35-7200　穂高岳山荘 ☎0578-82-2150　北穂高小屋 ☎0263-46-0407　南岳小屋 ☎0263-35-7200　槍平小屋 ☎0578-89-2523

立ち寄り温泉

ひがくの湯 ☎0578-9-2855